

ロニの東洋語学校日本語講座開講

講演（1863年）

森 川 甫

レオン・ド・ロニは¹⁾1858年、アメリカ及び東洋民族学学会を設立し、1862年、徳川幕府派遣第一回使節の通訳を勤め、同使節団の福沢諭吉と親交を持った。1863年から東洋語学校で日本語を教え始め、1868年、日本語の初代正教授に就任し、1886年に高等研究院副院長となった。また、1873年、パリで第一回東洋学国際会議を組織、開催した。日本文学、文明に関して多数の著述がある。

1863年に東洋語学校の日本語講座開講講演を行っているが、それまでの日本語研究の困難な歩みを語り、幕末当時の日本の国際的、国内的状況を簡潔ではあるが、ほぼ適確に概観し、その後の日本の発展について鋭い洞察を示し、日本語を学ぶ重要な意義を強調している。以下、同講演の翻訳を試みた。なお、不明確な箇所は脚注に指摘した。

I

諸君！

日本人の用いる文語や口語の研究、つまり、この講座が専ら取り組むごとになっている研究に着手する前に、フランスにこの新しい教育機関を設置することになった状況と、科学、文学、産業、また、我々の政治的、商業的関係の増進に対して提供することのできる利益に関して暫くの間、諸君にお話することをお許し頂きたいと思ひます。

公教育及び宗教担当大臣閣下の御好意により、

私がこの講座において教授するよう求められている日本語は、アジア世界の中で最も興味があり、また、同時に、最も難しい言語に数えられております。真に価値のある文学を生み出したあらゆる言語のうちで、この言語だけがごく最近まで、近代文献学の広範な分野の中でほとんど「未知の土地」であり続けました。

一世紀有余の間、ヨーロッパにおける日本研究がほとんど進歩しなかった根拠とされる様々な理由のうちで、特に言及しなければならないのは、日本列島において用いられている文字が東洋学者に与えた障害についてであります。まずく決まり、読めないほどくずし、絶えず混乱し続ける幾つかの体系によって構成され、既知のあらゆる文字よりも遙かに複雑で、不明確なこの文字は、最も熱心な研究者にとってさえ、読むことができないと思われました。そして、キリスト教信仰の使徒たちでさえ、これを苦々しく歎きました。従って、日本語に関して書いたすべての宣教師がこの文字を扱うことを差し控えました。そして、この沈黙を説明するために、彼らのうちの一人であるサンタ・イネスのオヤングレン神父²⁾は、彼らの記号のうちに、「福音の奉仕者たちの苦痛を増し加えるために考え出された悪魔の仕業」を見たと言明しました。

このような文字の使用は、別の宣教師、マッフェイ神父¹⁾がほとんど共通性のない複雑さを示すも

1) Léon de ROSNY (1837-1916), フランスの東洋学者。原注は括弧なし、訳注には) を付けた。

2) OYANGUREN de SANTA YNÈS (Le P. Melchior 1688-1747), スペインのフランシスコ会宣教師。

1. MAFFEI, Le P. Giovanni Pietro. 16世紀後半の宣教師。[(1536-1603), 歴史家, イエズス会宣教師, Joannis Petri Maffei, ... *Historiarum indicarum libri xvi*; selectarum item ex India epistolarum eodem interprete libri IV; accessit Ignatii Loiolae vita postremo recognita... — Florentiae, apud P. Junctam, 1588. In-fol., 570 p. et l'index. BN. (Fol. O²K, 253, BN. は Bibliothèque Nationale (フランス, パリ) の略号。この書のフランス語訳, *L'Histoire des Indes orientales et occidentales*, du R.P. Jean Pierre Maffee, ... traduite du latin en français par M.D.P. ... Paris, R. de Ninville, 1665. に日本に関する記述がある。cf. 「日本に関する地誌的歴史的記述が初めて西洋の歴史に現われた。」牧建二著『西洋人の見た日本史』清水弘文堂, 昭和43年, p.46.]

の、つまり、日常の実用の場合と文学の場合の異なった語法、書簡の文体と書物の文体の違い、話し手の地位による違い、更に話しの聞き手の地位や身分による違い、貴族、町民、民衆による違い、僧侶と平民による違い、男と女による違い、要するにバベルの塔時代にしか同類のものが見いだせないような地獄の言葉として報告された言語の研究が進捗するはずがありませんでした。

次に、研究の道具が欠けていました。フランススコ・ザピエルの後継者たちは、実際、幾冊かの辞書や語彙集をよく出版しましたが、恐らく宣教師たちには十分であったこれらの書物は、ヨーロッパの東洋学者の必要には何ら応えておりませんでした。一方では、これらの著作は特に原住民の使用のために書かれていたからであり、他方では、原語抜きで印刷され、また、大抵の場合、欠陥のある方法で構成されていたからであります。天草で出版された羅和辞典は、とりわけ、求めている言葉の明瞭な、また、正確な翻訳を与えないで、余りにもしばしば、学習者を困惑させるほど漠然とした定義とか言い回しを代りに与えておりません。

原語を転写するためにラテン文字を用いていることに関しては、日本人が音ではなく、事物とか観念の性質を呼び起こす記号を用いていることを考えるならば、それがいかに不十分であるかが、容易に分かります。異綴同音語が現われる場合、それは数多くありますが、ラテン文字に転写された日本語の本文は全く理解できません。一つだけ例をあげると、I-womiru と書く言葉は、「私は医〔者〕を見る」か、「私は猪を見る」か、「私は異³⁾〔人〕を見る」か、「私は井〔戸〕を見る」等々といずれを意味しているのか疑問を残します。逆に、原語では、見たのが医者か、猪か、異人か、井戸か、他のものかが直ちに分かるのであります²⁾。最後

に、問題の語彙集は説明が冗漫なので、読者の疑問を明らかにしないで、ただ頭を混乱されるだけであります。

このようにして構成されている、この熱心な宣教師たちの著作は書物の高い知的程度に対しては非常に凡庸な手段でしかなかったもので、今世紀初頭、日本語のテキストを少しでも翻訳する時、東洋学者は誰もこれに頼ることができなかつたのであります。その上、日本がヨーロッパ人に対して鎖国していたことが、スペインやポルトガルのイエズス会士たちのこれらの著作を極めて珍しいものにし、ヨーロッパには数冊だけしか到り着きませんでした。しかも、ヨーロッパでは利用する能力を持つ者の手には入らず、これらの著作は法外な値段で入手された後、富裕な愛好家たちに売られ、彼らの書庫のほとんど近付けない戸棚に豪華に飾られておりました。従って、競売吏の小槌のもとで、ロドリゲス神父⁴⁾によってポルトガル語で説明された語彙集は⁵⁾ラングレの競売で639フランで、また、ロドリゲス神父によってスペイン語で書かれた文法書は、ごく最近ベルギーで行なわれた競売で費用を含まないで、1,050フランで落札されました³⁾。

今日では書誌学的関心しか魅かない著作である、イエズス会の神父たちによって書かれたこの少数の書物を除いて、原語の大きな語彙が欠けておりました。そのとき、クラブロート⁶⁾とアベル・レミュザ⁷⁾がヨーロッパに日本語の研究を導入しようとして試みました。この目的を遂げるために彼らが最初に考えたことは、パリの帝国図書館に手稿本として収められているロドリゲス神父の文法書の梗概の出版に挑戦することでありました。ポルトガル語から翻訳されたこの手稿本はアジア協会の費用と後援により1825年に出版されました。その序文の中で、出版者は、学習を促す簡潔さを持

3) あるいは、夷と思われる。

2) さらに詳細には、ROSNY *Rapport à S. Exc. le ministre d'Etat sur la composition d'un Dictionnaire japonais-français-anglais*. Paris. 1862. および、*le Journal asiatique*, 5^e série, t. XV. p.272. 参照。

4) RODRIGUES Girão, Le P. João (1561-1634), イエズス会宣教師。

5) *Vocabolario da lingua de Japam, com declaração em portuguez, feito por alguns Padres e Irmãos da Companhia de Jesus*. — Nagasaki, no collegio de Japan der Companhia de Jesus, 1603, BN, [Rés. X. 972. (Sommervogel によれば、le P.J. RODRIGUES Girão 著。)]。

3) Gand [ガン] で発売された Bibliothèque van Alstein (カタログ番号 2816)。

6) Heinrich Julius KLAPROTH (1783-1835), ドイツの東洋学者、シナ学者。

7) Jean Pierre Abel REMUZAT (1788-1832), フランスのシナ学者。

ち、また、「研究者が信用することの出来る確実さに基づいた」書物を東洋学者のもとに届けようとしたと述べました。

この言明をどのように考えなければならないか、また、アベル・レミュザによって後援されたこの著作が言語学の進歩にどの程度役立つかは、その後の経験が明らかにしてくれました。この著作が出版されて一年後、ヴィルヘルム・フンボルト⁸⁾はこの書を検討したのち、彼の文献学的な意見を驚かす幾つかなの特異な点を指摘しました。二人称の代名詞に全く以て一人称の代名詞⁹⁾や、一人称の代名詞に似ないで二人称の代名詞に似た三人称の代名詞¹⁰⁾、主格としても用いられる所有格の小辞、何ら意味のない語幹、恐ろしく長い活用、数え切れない形、またロドリゲス神父とオヤングレン神父の文法書では見いだされるが、「言語の真の天才に用いられた方法の前では消える」法やジェロンディフや接尾辞や小辞等々を一つの言語が所有していることにフンボルトが驚いたのは当然であります。従って、賞賛すべき努力にも拘らず、クラブロートとアベル・レミュザの試みはほとんど完全に失敗しました。十分な手段抜きで、まだ早すぎた研究は拒否されなければならなかったのであります。

オランダ人だけが、平戸、次いで、出島で設立を認可されていた海外支店のお陰で、原住民との接触により、ヨーロッパの東洋学者を妨げていた

障壁を取り除く手段を獲得できました⁴⁾。エンゲルベルト・ケンプフェル¹¹⁾とツンベルグ¹²⁾は長崎から江戸への旅行中、幾つかの興味深い言語学的資料を収集しましたが、これらの資料はテキストの翻訳に用いるには大抵の場合、ひどく不完全で、常に不十分でありました。この二人の著名な旅行者よりも学識では劣っていたけれども、イザーク・チチング¹³⁾は原住民の通訳により、幾冊かの原作、とりわけ、『日本王代一覽¹⁴⁾』や『三国通覧図説¹⁵⁾』を翻訳するために、日本滞在を利用するというまい考えを思いつきました。これらの翻訳はクラブロートのもとに届き、彼はそれを日本文学の見本として紹介しました。この二つの著作は不幸なことに、かなり無味乾燥な叙述でありました。そして、外国語の大げさな言葉を書き加えているフランス語版は、しばしば、た易く快く読める代物ではありませんでした。とはいえ、これらの著作は学者によって受け入れられ、そして、多くの誤訳が見いだされるにもかかわらず、今日でも一読するとき、アジア研究の時には遅いが、しかし常に有用で進歩する歩みに非常にしばしばうまく先行することができた出版者の才能が称賛されるのであります。

しかしながら、日本語の真髄はまだ誤解されており、その文学は東洋学者たちにとっては、多くの、そして、人を欺く謎をかけるスフィンクスのように思われておりました。1830年のシーボルト

8) Karl Wilhelm HUMBOLDT (1767-1835), ドイツの言語学者。

9) 例えば、手前(てまえ)。

10) 例えば、君(きみ)。

4) 「数人のオランダ人旅行家は日本の書物を読むために日本に立ち寄ったが、彼らの持っている学識では、長崎の通訳抜きというわけにはいかなかった」と Landresse は述べている。

11) Engelbert KAEMPFFER (1651-1716), ドイツ医学者。長崎出島のオランダ商館医師として滞日。

12) Carl Peter THUNBERG (1743-1828), スエーデンの植物学者。オランダ東インド会社に入って来日。

13) Isaac TITSINGH (1740-1812), 長崎出島のオランダ商館長。

14) *Nipon o Dai Itsi ran, ou Annales des Empereurs du Japon*, traduits par M. Isaac Titingh, complété et corrigé sur l'Original japonais-chinois par M. J. KLAPROTH. Paris, 1834. 『日本王代一覽』林恕(鷲峯)編, 成立年代, 慶安五自跋(『国書總目録』岩波書店)。

15) この講演では、ロニは la *Description des trois royaumes* と翻訳している。『三国通覧図説』(さんごくつうらんずせつ)一冊五葉, 別名, 三国通覧, 著者, 林子平, 成立年代, 地図天明五・解説同六刊... 地図は三国通覧輿地路程全図・朝鮮八道之図・琉球三省並三十六島之図・蝦夷国全図・無人島大小八十余山之図の五葉より成る。

(『国書總目録』)。この林子平著『三国通覧図説』が RIN SIFÉE. *San Kokfytou ran to sets, ou Aperçu général des trois royaumes...* (— Paris, 1832. BN. [4°O. 19. A.] という表題でクラブロートによってフランス語で出版されている。このことを後年、ロニは、*La Civilisation Japonaise*—Conférence faites à l'Ecole Spéciale des Langues Orientales par M. Léon de ROSNY. Edit. Leroux, Paris, 1883. p.314. で述べている。

氏¹⁶⁾の記念すべき旅行は新しい時代の合図でありました。この著名な旅行家は探索するのを自らの使命とした国にかかわるすべての事に関して多数の正確な事実を集めただけでなく、あらゆる才能とあらゆる努力にもかかわらず死んだ文字となっていた一つの言語を、真剣に研究することをついに可能した、書物の豊富なコレクションを作成しました。

不幸にも未完成であったが、『日本』⁵⁾という題を付けられた偉大な、そして、貴重な資料集として十分に活用されたシーボルト氏の蔵書により現在ライデン大学の教授であるホフマン氏¹⁷⁾は、クラブロート、アベル・レミュザやその他多くの著名な東洋学者を妨げていた障害を取り除くことができました。同時に、オーストリアの学者、アウグスト・フィッマイヤー氏¹⁸⁾はこの同じ資料の一部により、ウィーン王立帝国図書館の多数のテキストを翻訳することを企て、そして、江戸の有名な小説家、柳亭種彦によって書かれた小説の組版による印刷の本文とその最初の翻訳を、愛好家たちに提供し、驚かせ、喜ばせました。

このような最初の成功は日本語研究の未来を勇気づけるものでありました。とはいえ、日本語の文献学が決定的な飛躍をなし、この文献学がその研究者の数を増加するためには、少数者だけが骨の折れる労苦によって利用できた資料をすべての人々が利用できるようにする必要があります。

要するに日本語の文法書と辞書が公にされなければなりませんでした。

シーボルトは書物の豊富なコレクションをヨーロッパに持ち帰った時、新しい探究の基礎に役立てる願いを表明しておりました。そして、この探究が特に最も経験の深い中国学者に支持されて企てられることを彼が勧めたのは正しいことでありました。

シナ文明を知るためにきわめて大きな貢献をしたフランス、すなわち、ヨーロッパがうらやむほど著名なシナ学者がいるフランスは、このオランダの旅行者のアピールに対して耳をふさいでいることはできませんでした。スタニラス・ジュリアン氏¹⁹⁾の常に非常に有用で、非常に経験豊かな忠告のお陰で、この学者の弟子の一人²⁰⁾が自由に利用できるようになった原書の中から日本語の辞書の要素を集めることに専念し、そして、原語のテキストをこの最初的手段で分析することによって、彼は特に日本の土着の文字の研究に基づいた『日本語研究序論²¹⁾』を著述することを試みました。1856年から公刊されたこの試みが好意的に迎えられたことによって、著者は勇気づけられ、開かれたばかりの道を更に押し進めました。彼は熱心に『辞典²²⁾』の編纂に取りかかり、そして、幾つかの外国の大図書館の探索による望外の幾つかの助けのお陰で、四万五千語近く収集することができ、それらの語はすべて漢字で書き表わしま

16) Philipp Franz Jonkheer Baltazaar van SIEBOLD (1796–1866), ドイツの医者。長崎出島オランダ館の医師として来日。

5) *Nippon, Archiv zur Beschreibung von Japan*, [und dessen Neben- und Schutzländern, 2巻, 1832–54.] In-folio.

17) Johann Joseph HOFFMANN (1805–1878), ドイツの日本学者、言語学者。著書として、*Catalogus librorum et manuscriptorum japonicorum a Ph. Fr. de Siebold collectorum...* Libros descripsit J. Hoffmann... — Lugduni Bataavorum, apud auctorem, 1845. BN. [Rés. X. 621. *Japansche spraakleer*, door Dr. J.J. Hoffmann... — Leiden, E. J. Brill, 1867. *A Japanese grammar*, by J.J. Hoffmann... 2^d edition. — Leiden, E.J.Brill, 1876. その他がある。

18) August PFIZMAIER (1808–1887), 東洋学者。万葉集中の歌二百余首を訳出し、ヨーロッパにおける万葉研究の開拓者となる。また、柳亭種彦の『浮世形六枚屏風』の翻訳がある。

19) Stanilas JULIEN (1799–1873), フランスの中国学者。コレージュ・ド・フランスの教授。中国の言語、文学、文明について多数の著書がある。

20) 本講演をしているロニ自身のこと。謙遜して自分自身の名前を出していないのであろう。

21) *Introduction à l'étude de la langue japonaise*, Paris, Maisonneuve, 1856.

22) *Dictionnaire des signes idéographiques de la Chine, avec leur prononciation usitée en Chine et au Japon...* par L. de Rosny, 1^{re} partie, Paris. Duprat, 1846. 80p. *Dictionnaire des signes idéographiques de la Chine, avec leur prononciation usitée au Japon...* par Léon de Rosny... Paris, Maisonneuve, 1867, 226p. ロニはこの『辞典』を師であるスタニラス・ジュリアンに献じている。

した。出島のオランダ人商官、ドンケル・クルチウス氏によって著わされた『日本語文法²³⁾』とゴッホキエヴィッチ氏の『日露辞典²⁴⁾』の出現が、少し後に彼の得た正確さを確認するのに貢献しました。

大君の使節がヨーロッパにやって来たことは、日本研究において発展の時期を画しました。書物による言語の知識に日常語の実用を付け加えました。語の発音とアクセント、民衆の話法と特有語法、方言の変化が同じく新しく獲得されたものでありました。外務省の好意と援助によって、オランダ、プロシヤ、ロシアで日本使節に同伴し、私はこれらの貴重な教示を広く利用することもできました。親切でもあり、知識経験の豊かな人々から成る小グループの日本人の間で過した四十日の昼夜、私が収集した多数の文献的事象を諸君に順次、報告できるのは私の義務であり、喜びとするところであります。

以後、私たちの間では日本語の真剣な研究を阻む多数の障害は取り除かれる方向にあります。そして、前に広がる新しく、豊かな鉱脈を採掘することに熱心に専念する優秀な知的研究者は今未だ少ないとはいえ、近い将来において、日本の文学作品がヨーロッパの主要言語において信頼できる通訳を見いだす時代をかいま見ることができるとありましよう⁶⁾。これは私たちの行く手に未だ遭遇する並みでない困難さを私が隠そうとしているわけではありません。私はただ諸君の熱心で、共感する協力によって、多くの場合それらを克服できるであろうという強い希望を持っております。

しかし、諸君、私が諸君に求めている協力の代償は何でありましようか、また、日本語の知識は諸君にとっていかなる有用性があるのでしょうか。日本における文明発展の流れとそこから結果する

文学に関する簡潔な報告が、私が今日、諸君に与えることのできる最良の答えになると思うのであります。

II

日本人の起源に関しては、しばしば論じられてきました。ある学者は、それは現在日本人が住んでいる列島の原住民であるはずだと考えました。他の学者は彼らの起源は大陸に見つけることができると思いました。後者の説を信奉する者は中国の伝承に基づいております。それによれば、焚書の命令者、文人の迫害者、万里の長城の建築者として有名な秦の始皇帝は、不老長寿の薬を求めめるために極東の島に、やがてそこに住みつき、日本の最初の住民となる一組の青年男女を派遣しました。この風変りな伝承に幾分かの歴史的価値を与えることができると仮定しても、そこから演繹される人種誌学的結論は必然的に放棄しなければなりません。というのは、問題の移住は西暦前209年頃、中国を発ったとみなされるからであります。一方、日本の真憑性ある記録は少なくともさらに四世紀さかのぼっております⁷⁾。

さらに、自国のことが問題となるとき、少なくとも中国の伝統に匹敵するとする日本人の民間伝承は、日本列島の住民がアジアの他の国民と全く共通の起源を持つことを普通、一致して拒否します。その上、この民間伝承は東アジアのこの列島を人類全体ではないが、そこに住んでいる種族の揺籃地と見なすことを主張します。「日本は世界で最も気高い国である。従って、水の下に沈没したことがかつてなかった。それ故、この国だけが大陸に対して移住を与えることができた。というのは、中国や地球上の他の国は人口を壊滅する大

23) Jan Hendrik Donker-Curtius (1813-1879), オランダの外交官、長崎出島のオランダ商館長として来日。 *Essai de grammaire japonaise*, composé par M.J.H. Donker Curtius... enrichi d'éclaircissement et d'addition... par M. le Dr. J. Hoffmann... traduit du hollandais... Paris, B. Duprat, 1861.

24) Gochkevitch, (J)・や・志・き・ち・れ・が Saint-Pétersburg, 1857.

6. 日本語文献を理解できる要員の数が今日でも非常に少ないので、英国自体、江戸訪問使節エルジン卿にまともな通訳を同行させることができなかつた。「私の入手した書物の大部分は日本語で書かれていたので、それらの書物は大きく役に立たなかつた。なぜならば、誰もそれを読むことができなかつたからである」と使節書記の Olyphant 氏が述べている。(*La Chine et le Japon*, trad. de M. Guizot, t. II, p.157).

7. シーボルト氏はさらにさかのぼっている。神武天皇の治世、つまり、西暦前600年前に、日本人は年代記的知識を持っていたと、彼は考えている。

洪水をうけたからである」と原住民の作家は言います。

実際は、日本の知識人は彼らの同胞のある階級の人々の間で流布しているこの種の宇宙開闢の伝承を微笑して聞き流すだけであり、彼らは彼らの島々の昔の住民に蒙古の起源を与える傾向があります。とはいうものの、彼らの種族の自律性はタタール人の書かれた歴史の初期の出来事よりも古いことを主張し、また、文明の最初の発展は国民性が決定的に定まり、また、他の国民とはいかなる接触もなく、彼らの間でだけで行なわれたということをサポートしています。

更に、驚くべき知的優秀さを備えた幾人かの知識人と議論し、堀り下げたこの説は、「タタール人語族」の名でかなり漠然と示されている、人種誌学的集団の移住に関するごく最近の言語学的所与と一致するのに見えます。そして、この語族の特有語の日本語との詳細な比較が、少なくともその基本的性格において問題を決定的に解決し、そして、ボスフォラス海峡の岸から極東の果までひしめて存在しているこれらの多数の部族、特に、関係の深い部族の原初の歴史や、その子孫に光を照らすことを私は疑わないのであります。現代の文献学者はセム語やインド・ヨーロッパ語の起源の暗い迷宮の中に輝く燈明を持ち込むことに成功しました。タタール語族の揺籃地に関しても、同じく有用な結果を文献学がやがて得であろうということを考えるように、あらゆる条件が私たちに導いております。

北アジアの歴史は比較的かなり新しいと言えます。大建築物が欠けています。進歩の永遠の事業にかつて寄与した貢献に関しては深い不確かさが残っています。遊牧民で、好戦的なこの部族はアッチラ²⁵⁾、ジンギス汗²⁶⁾、チムール²⁷⁾等に次々と導かれて旧大陸の中心に絶え間ない戦火の明りの中で血によって汚された道を引くことのみを使命としてきました。日本語の理解はこの研究に最も貴重な材料を提供しております。この語の理解はビザンチンの海辺と東アジアの島で用いられてい

る特有語の間の不思議な類似関係、これらの極限の地方から離れた他のすべての地方において、しばしばとは言えないが、少なくともその性質において極めて意義が深く、最も厳しい批評家の眼にも明らかな、文法形態の類似と語彙の類似を示しております。

中国古代の文献学的研究に関しても同様であります。日本の文学は日中両国の交流の初期において中国に広く流布していた言語の足跡を私たちのために保存してくれました。中国の象形記号の古風な発音は細心にわたり守られてきましたし、少なくとも、その基本的性格や、発音文字の助けや従って一定した確実な方法によって声のイントネーションを回復させることに関して保存してくれたのであります。今日、中国人の間では既に用いられていない、あるいは、廃れた話法が原初の形で見いだされ、そして、時と共に加わった文法の変化に至るまで、漢王朝⁸⁾から遠く隔ったこの世紀にアジア大陸でいかに話されていたかを私たちに教えてくれる足跡が日本には存在するのであります。古い時代のこれらの言語学的証拠は、とりわけ、考証学的研究が「言語の原初状態」と呼ぶことに決めたところにまでさかのぼることの出来る確実な道をこれらの証拠が開いているということを考えるとき、莫大な能力を獲得したのであります。これらの証拠は、実証科学によって、文明に生まれる人間の知識への歩みを、過去の深みを貫いて、私たちの起原の揺籃に関する明白な指標の積み重ねられた三十世紀以上を闇から奪う輝かしい光を私たちに備えてくれます。

しかし、日本語の知識が私たちに思いがけない助けをもたらしてくれるのは、人種誌学や言語学に関してだけではなく、歴史に関しても、また、かつて人間精神の生み出した最も興味深い宗教の一つ、つまり、仏教の解釈学に関しても同様であります。

西歴一世紀に中国に伝来した釈迦無二の教義は、372年には朝鮮半島に伝わり、そこから約二世紀のちに日本列島に伝来しました。その教えの

25) ATTLA (395頃-453).

26) GENGIS KHÂN, 別名, TEMÜJIN, または, TEMUDJIN (1155, または, 1162, または, 1167-1227).

27) TAMERLAN, 別名, TIMUR-LANG, または, TIMOUR-LANG (1336-1405).

8. 西歴前206-後221.

本質的に平和的性格とその宣教者を活気づける超人間的靈感にもかかわらず、この教義は日本において初めて強い反対を受けました。天照大神、換言すれば、「太陽」の直接の子孫として世俗的にも宗教的にも権力を一身に集めているこの国の主権者たちは、国家宗教にとって代る外国宗教の教説をやはり不快感をもって迎えました。しかしながら、彼らはこの新しい信仰の使節が伴っている不思議な魅力に対して長く抵抗することはできませんでした。そして、次の段階で、政治的利益のために彼らの父祖伝来の古い宗教の教説とこの教義を折衷する方法を求めるといふ点はさておいて、彼らは間もなくそれを彼ら自身の中に包み込むことに決心しました。

仏教は日本に伝来すると直ちに、多数のインド人や中国人の僧侶が釈迦の經典と、その解釈と展開に役立つ書物を持って住みにやって来ました。列島のすべての要衝には僧院が建てられ、そして、良心的に守られる規則によって、それぞれの僧院に書庫を設置することが義務づけられました。民衆が經典を容易に理解できるように熱心に出版された翻訳においてインドの言葉を再現するために、チベットの「ランザ」にかなり似た文字が作られました²⁸⁾。

間もなく、仏教は大きく発展し、その原理と目的を定義することを求める有能な解釈者を生み出しました。彼らの論議から、宗派が生まれ、それらは多数の入信者を獲得し、そして、多くの場合、彼らの不一致の動機は文書に記録されました。幾つかの宗派は並ならぬ哲学の高さにまで至り、そして、民衆の段階では日毎に益々その宗教精神が薄れていく字義を教えておりましたが、幾つかの人里離れた僧院では、東洋がもしもかつてそこに到達したとしても越えたことの決してない至高の形而上学の上にこの同じ宗教は基礎をおいたのであります。

諸君、お分かりでありましょう。日本語の知識は仏教研究のために貴重な材料を提供しておりま

す⁹⁾。そして、私が先程話した宗派の書物を知るとき、私たちが受けるに違いない利益はさておいて、諸君に話したごとく、日本のすべての僧院にある書庫には、インドでも、中国でも見いだせない、そして、釈迦無二の教義に関して未だ理解されていない幾つかの教義の意味を真に私たちに明らかにすることを促してくれる仏教の原書の幾冊かが保存されているということを決して疑うことができないのであります。

私は、日本人の翻訳し、また、注釈している中国の不朽の文学作品について語らないし、また、彼らが孔子の作品や中国のモラリスト、あるいは、哲学者の作品に関して企てた文献学的、また、批評学的大著作についても語りません。日本文学のこの部門を簡単に一べつするだけで、私の辿ってきた境界線を越えることになるし、また、私が諸君と取りかかるのを急いでいるテキストの説明を遅れさせることになるでありましょう。私の目的を達成するために、日本の国民文学の発展に関して、また、東洋のこの興味深い帝国の文明の現在の状態に関して、なお少し述べることで甘んじたいと思います。

日本人ほど豊かで、多様性のある独自の文学を持っている国民はアジアにはありません。印刷所と書店がこれほどの活動を示している国はありません。毎年、都、江戸、大坂、長崎、また、他の余り重要でない都市において、この国で評価されている古い著作の新版が出版され、あるいは、様々な階級の人々の意見によって新しい本が出版されております。日本列島の人々は熱烈に読書を好んでおります。とりわけ、婦人たちは余暇の大部分をそれに費しています。この趣味は国民のあらゆる階層に深く根づいているので、ロシアの船長ゴロヴニーン²⁹⁾の言によれば、一介の兵卒でも哨舎で歩哨に立つとき、朝から晩まで本を読んでいるほどであります。

日本文学の最初の時期は古い大和言葉で書かれた詩と民衆の歌を集めたものによって代表されて

28) landza (ランザ)の意味は不明だが、梵語の音写(例えば、梵語「カーラカ」と「チンデュカ」を「迦羅迦果」と「鎮頭迦果」と記す)を意味しているのであろう。

9) Cf. SIEBOLD, *Archiv zur Beschreibung von Japan*. Nippon. V

29) Vasilii Mikhailovich GOLOWNIN (1776-1831), ロシアの海軍士官。千島南部で捕えられ、松前で抑留された。抑留中の彼の記事『日本幽囚記』1816がある。邦訳は数種ある。

います。日本の古代住民の、表現に富み、響きのよい、この特有の語法は、外国の語法と接触しても変化しないで幾世紀も経てきました。その魅力ある簡潔さは純粹なので、この語はその中に中国語の、表現が大きな一音節語を入れることを拒んでおり、そして、原初の時代から変化していない言葉を全く新鮮なままで私たちのために保存してくれております。演劇は一般的に歴史的で宗教的なのもありますが、後代に大和言葉で書かれました。そして、また、今日、帝国の首都である都に集まった詩人たちが彼らの歌で天皇を敬愛する気持を表わしているのもこの興味深い言葉によってであります。

多数の歴史的な不朽の名作がやがて日本に現われました。そのうちの最も重要なものでも私たちには題名しか知られておりません。それでも、ヨーロッパにまで来たもののうち文学的真の価値を拒むのが不可能なものが多くあります。今日まで歴史に関する唯一の作品である儒官、林春齋³⁰⁾による歴史の概説書³¹⁾によって日本の歴史家を評価してはいけないであります。天皇の皇位継承の一種の年代表以外の何物でもないこの著作は、私が今学期の終りに諸君と共に研究したいと思っている「日本書紀」や「太平記」のように、真の歴史家の文体を想像させることはできません。

軟文学の愛好者には、日本で毎年出版されて、女性や青年の余暇の話題となっているあらゆるジャンルの多数の小説に言及することができるであります。これらの小説のなかには、その構成においてヨーロッパでも恐らく成功を博するものがあります。逆に、その他のものは、世界中で最も不思議に組織された国民の、緊密で、未知の風俗に通じている好奇心の強い少数の文学者の関心

しかひくことができないであります。幾世代もの小説家が書き続け、また、日本では主要な都市で定期的な刊行が絶えず好評のうちに迎えられておりますが、パリでは恐らく好評を博さないとされるこれらの小説については際限なく語る積りはありません¹⁰⁾。

地理学の記述は、私たちの取り組んでいる文学の中に多数ありますが、多分、私たちにとって二次的な関心となるであります。しかしながら、中国ではまれで、そして、私の友人で学者の齊藤大之進³²⁾の言によれば、都、江戸、大坂、その他幾つかの大都市の図書館で容易に見いだされる仏教徒の巡礼の古くからある見聞談は二次的な関心からは除かなければならないであります。特に、日本の地理に関心を持つ者は、驚くほど正確に書かれた地形学の手引き、と短時日でその地方を巡る観光客の関心をひく自然についての案内を少しも省いていない道路地図を難なく得ることになるであります。

日本文学のすべての部門の中で、博物学と医学ほど豊かに表現されているものは、恐らく全くないであります。この国の学者が、あるいは詳細に、あるいは概説的に、この二つの大きな科学と関係のあるすべてのことに関して、書物や論文をいかによく書いてきたかは信じ難いほどであります。本質的に観察者である国民においては、このような文書は私たちにとって新しい、そして、未知の事実を必ず含むことであります。最も重要な発見はしばしば、偶然の結果にすぎません。逆に、最も学問的な方法によって探究された研究は小さな結果にしか到達しません。未開な人々は病理学を何ら考えつくことができません。その代り、彼らは伝統により、あるいは、経験により、多くの植物の特性を知っており、そして、医学の

30) 林春齋、名は怨・春勝、別号、鷲峰。(1618-1680)、江戸前期幕府の儒官。Cf. p.19(1)。ロニは moine Ryouun-sai Rin-zyou と記しているが、後年 le moine Syun-zai Rin-zyo と訂正している。(Cf. 前掲書、*La Civilisation Japonaise*, p.306)。

31) 『日本王代一覽』のこと。

10) 我々の関心をひき、このジャンルの最も優れた作品の一つとして有名であり、また、『筆述海四国聞書』〔別名、筆海四海聞書・筆の海四国の聞書〕という表題で著名な小説家、柳亭種彦によって江戸で出版された四国の仮想物語を日本から持ってくるのは面白いであろう。

32) 「大君の使節」の同心、ロニ編『日本詩歌撰葉』*Anthologie japonaise, Poésies anciennes et modernes des insulaires du Nippon*, 1871に齊藤大之進作「送別歌 へだてなき ころそ通ふ 海やまや みちの行へは よし遠くとも」を収めている。

機能や学理を所有している国々におけると同様、全く同じ数の病気をなしております。いわんや、自然の豊かな性質をこれほど多く受けてきたことを幾度となく立証してきたこの進んだ国において、有用な発見を見出すことは、当然期待すべきでありましょう。

日本では自然科学、医学は共に興味深い二つの面において現われております。一方は、植物の力にしか専念しない旧学であり、他方は、人間の病理学の原理に全く基づき、私たちの治療学の進歩に導かれて、原地の専門家によって獲得された観察の事例を、ヨーロッパで用いられている方法によって我が物としようとする新学であります。この二つの学派の信奉者たちがそれぞれ毎年多数の著作を出版しております。

精密科学は、日本人においては今日まで熱心な研究の対象になっていたようであります。大君の使節の博士たちは、彼らの同僚が数学に関して我々に何ら劣らないことを私にしばしば繰り返しておりました。彼らは代数学においても多くの問題を単純化しただけでなく、我々を今なお悩ましている問題を解決したと主張しておりました。私はこれらの主張の正当性を保証することは何ら考えておりません。ただ、それらは検討されるに値すると私は思います。なぜならば、第一にそれらは旅行者たち¹¹が私たちにもたらしたものと一致するからであり、次に、それらはビールナルツキー氏の興味ある手記¹²によって、また、有名なビオ³³の意見によって確認されているように思えるからであります。今は亡きこの学者は、様々な種類の事実によって、数学に関する日本人の主張を必

ずしも全く拒否することができなかつたし、また、この件に関する彼の意見の理由をいつか書きとめたいと、かつて私に語っておりました。とにかく、ラプラス³⁴の著作¹³やラランド³⁵の天文学³等々を自国語に翻訳することができたこの国民に進歩した科学的知識があることを否定することはできないのであります。

日本の科学的著作、植物学や薬局法の論文の文体はとりわけ、通常かなり簡潔であります。それは、特別に専念する者に重大な困難さを長い間、示すことはないでありましょう、そして、彼らが研究に専攻した時間によって報われるであろうと当然考えられます。

私は産業の科学に関する多くの著作についても述べることができます。日本人が工芸のある部門で、とりわけ、金属の焼き入れ、白兵戦用の武器や陶器や漆器の製造、絹織物等々において真に優れた水準に達していることを知らない者は誰一人おりません。製紙や墨の製造、色印刷や染色に用いられているかなりの数の方法もやはり、私たちの注意をひくに値するものでありましょう。

今、私は講演を終えねばならない時がきた。しかし、私もまた、フランシスコ・ザビエルがイグナチウス・ド・ロヨラに言ったのと同じ言葉を言わなければなりません。「私は日本人について語り出すと、やめることができない。彼らは真に私の心の喜びである」と³⁶。諸君のなかで彼らの言語を学び、彼らと良き知的関係を保っているならば、彼らを理解できず、また、彼らから理解も

11. Cf. Bernhardi VARENI, *Descriptio regni Iaponicae*, 1649, p.77.

12. *Journal für die reine und angewandte Mathematik*, von A.-L. Crelle. Berlin, 1856.

33) Edouard Constant BIOT (1803-1850), フランスのシナ学者,

34) Pierre Simon LAPLACE (1749-1827), フランスの数学者, 天文学者.

13. 学士院のジョマルによる。[Edme François JOMARD (1777-1862), フランス・アカデミー会員のことか?]

14. 1811-1813年の間、日本人によって捕囚されたロシアの船長グロヴニーンによる。

35) Joseph Jérôme (Lefrançois de) LALANDE (1732-1807), フランスの天文学者。アカデミー会員。

36) François XAVIER (1506-1552) はイエズス会創立者 Ignace de LOYOLA (1491? -1556) らイエズス会士たちに日本とその伝道の状況に関して多くの事を書き送った。

Flores epistolarum sancti Francisco Xaverii... Japonum apostoli, cum selectis quibusdam Sacrae Scripturae sanctorumque patrum sententiis... — Parisii, apud G. Josse, 1659.

Lettres de saint François Xavier, apôtre des Indes et du Japon, traduites sur l'édition latine de Bologne de 1795,... — Lyon, Périsse frère, 1828. などの書翰がある。

されない者たちの不当な判断を否定し、そして、「日本人は生来の善意と誠実さによって、また、精神の卓越さによって我々ヨーロッパの多くの国民よりも優れている。」とフロイス神父³⁷⁾と共にきつと繰り返すであろう。そして、最後に、この島に住む人々は、他のアジアの国民のなかでは長い間眠っているように見える知的長所を保持しています。『平和な二世紀の年月が日本文明をヨーロッパ以外の古い世界のすべての文明よりも優れたものにした』とオランダの大旅行家シーボルトが言いました。今日、東洋の諸国民のなかで日本の国民のみが精力と活力に満ち、未来に向って自己自身の意志で高速度で前進しています。日本人のみが外国の圧力を受けずに、我々の間で実現された偉大な進歩を身につけることを求めています。日本人のみが、厭うことなく、休むことなく、ヨーロッパと同列に並ぼうと努めています。人口過剰、世界の他の国々に対して長年とってきた鎖国政策、強力な封建的貴族階級の古い利益と、西洋との通商開始以来国内の内部に生れた新しい利益を妥協させるときのいざこざ、上流階級に搾取され、そして、既に知識階級に現われている開放運動に対立する国民大衆の宗教的偏見、このような社会活動の多岐にわたるあらゆる要素が激しく流動する土壌の上に日本国民を置いています。しかしながら、今、展開しているこの時代が最も豊かな成果をもたらすに至ることは疑うことができません。ヨーロッパの諸国の現状を賞賛すべき精密さと比類ない鋭敏さで研究した『大君の使節』

は、恐らく日本の近い将来の変貌に重大な役割を果たすことになるででありましょう。この使節団の一員が二度目のフランスを去る前に私に言いました。『私の祖国にいかにも自由が欠けているかを思うとき、私は今や眠ることができない。』と。自らの国と運命を共にすることを求められている人々の間では、変革時には絶えず自らを強めるあの知的状態に彼は至っていたのであります。彼はより適切な時期に熱烈な信念をもつのみならず、パリと同様、江戸でも、人々を偉大な市民に変える高貴な情熱の豊かな萌芽を彼の心に根づかせておりました。諸君、これが日本の現状であります。このように優れた性質をもつ国民に対して、ヨーロッパが得る政治的、また、通商的利益は日に日に急速に増加しうるのみであります。それ故、日本語の研究は様々な理由で時宜を得ており、また、疑いもなく将来性があります。それが諸君にとって、できる限り容易に、そして、喜ばしいものであるように、私が全力をあげて努めることを信じて頂きたいと思ひます。

付記

本訳業にさいして、パリ第七大学日本文明学科主任教授ジャックリーヌ・ピジョー氏より、幾つかの貴重な教示を得たことに対して感謝の意を表したい。なお、この訳業は昭和54～56年度関西学院大学共同研究《世界における日本研究》の一環として行なった。

37) Frôes, Le P. Luis (1532-1597) イエズ会士。日本伝道に従事。長崎で生涯を閉じた。著書として、*Lettera annale del Giappone scritta al Padre generale della Compagnia di Giesù* alli 20. di febraio 1588. — Roma, F. Zannetti, 1590. 等、日本からイエズ会本部に送られた書簡の他、日本における伝道、殉教に関する著作がある。